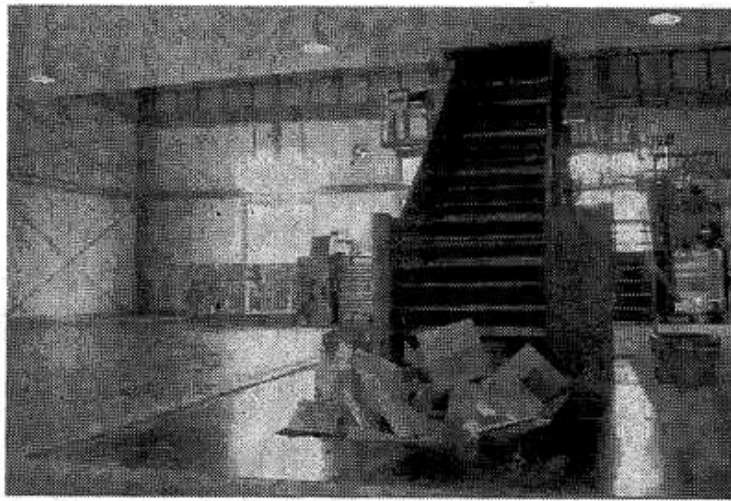


総合リサイクル施設が完成

大五産業 古紙からプラまで対応

一般廃棄物の収集運搬業者、大五産業（滋賀県草津市、権田陽子社長、☎077・564・2274）は、草津市内に古紙やアルミ缶、古繊維、発泡スチロールのリサイクル施設を完成、子会社である湖南地区資源開発センター（草津市）による産業廃棄物中間処理施設も併設し5月の本格稼働を目指す。



古紙の圧縮梱包施設

施設の敷地面積は1200平方メートル、投資額は土地代を含め約2億円。設備は①古紙・アルミ缶、古繊維の圧縮梱包機②廃プラ・木くず・ゴムくず・金属くず・ガラスおよび陶磁器くず・紙くず・繊維くずを対象とした②軸破砕機③発泡スチロール減容機で構成される。

古紙圧縮梱包機は60馬力で日量64ト（8時間稼働）の処理能力。段ボール・新聞・雑誌などを1×1×1メートルのサイズに加工し、製紙会社へ引き渡す。まずは草津・大津市内の廃品回収や事業系などから回収を進める予定だが、家庭系古紙の集荷も視野に入れている。同装置でアルミ缶・古繊維の圧縮梱包も行う。

発泡スチロールの減容固化は日量640キログラムの処理能力を持つ日本海洋（静岡市）のスチロールポストを導入、約180度Cの溶融熱で約50分の1のサイズにインゴット化。約9割は再生工場に引き渡し発泡スチロール原料に利用される。

産業中間処理ではフジテックス製の2軸破砕機（40馬力）で木くずなど7種類を破砕、硬質系廃プラスチックは別会社でRPFに加工される。

同社は現在、草津市・大津市の委託を受け家庭系一般廃棄物の収集運搬、不燃物の選別処理を展開。2003年に稼働を開始した選別ラインは月間80トの不燃物を処理しており、全国でトップクラスの人口増加率である市内のリサイクル率向上に努めている。